

第 69 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録(案)

1. 日 時：2016 年 1 月 19 日（火） 13 時 30 分～17 時 50 分
2. 場 所：日本機械学会 3・4 会議室
3. 出席者：青山(東大)、樺田(MHPS)、倉富(東電)、逢澤(MHPS 日立)、
飯島(日溶協)、幅野(IHI)、大橋(中電)、水谷(東工大)、飯田(東電)、
原田(東芝)、川端(関電)
欠 席：長谷川(発電技検)、山下(神鋼)
オブザーバー：吉村(MHPS 長崎)
事務局：原

4. 配付資料

- 69-1 第 68 回溶接分科会議事録(案)
- 69-2 溶接分科会委員名簿
- 69-3 第 74 回火力専門委員会報告
- 69-4 第 76 回発電設備規格委員会議事録(案)
- 69-5 JESC(日本電気技術規格委員会)技術基準適合性審議結果報告
- 69-6 「発電用火力設備の技術基準の解釈」の一部改正に対する意見募集
- 69-7-1 審議履歴表
- 69-7-2 レビュー票(関西電力)
- 69-7-3 レビュー票(MHPS 日立)
- 69-7-4 レビュー票(東京電力)
- 69-7-5 レビュー票(MHPS 三菱)
- 69-8 欠番
- 69-9 使われる規格とするために
- 69-10 レビュー票ダブルチェックの進め方

5. 議事

- (1) 前回議事録確認 [資料 69-1]
前回議事録(案)について確認を行い、議事録(案)が承認された。
- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 69-2]
 - 退任委員、新任・再任委員候補なし。

(3) 報告事項

(3-1) 火力専門委員会報告

[資料 69-3]

第 74 回火力専門委員会(12 月 4 日開催)の審議内容が報告された。主要な事項は以下のとおり。

- 次期火力専門委員会委員長候補に三原委員が選任された。
- 溶接分科会の議事内容の報告
- 審議結果の報告
 - ・高クロム鋼の許容引張応力の見直しを材料専門委員会に検討依頼することが承認された。
 - ・配管減肉分科会から火力設備配管減肉管理技術規格(S TB1)の改定提案があり、書面投票入りすることが承認された。
 - ・規格委員会宮口幹事から、メール審議実施要領と担当チェッカー制度について提案があり、メール審議実施要領については、書面投票を実施することが承認された。担当チェッカー制度導入については、書面投票は実施せず。

[質疑]

Q:メール審議実施要領、担当チェッカー制度の溶接分科会との関連は。

→メール審議実施要領、担当チェッカー制度の導入は、両方とも各専門委員会、規格委員会を対象としたもので、直接関連することは無い。また、担当チェッカー制度は火力専門委員会では、書面投票自体を行わないことになった。

(3-2) 発電設備規格委員会報告

[資料 69-4]

第 76 回発電設備規格委員会(12 月 9 日開催)の議事内容が報告された。主要な事項は以下のとおり。

- 第 74 回火力専門委員会報告
- 発電用火力設備規格に関する審議
 - ・JESC での発電用火力設備規格基本規定 2015 年追補の省令適合性審議の結果を報告。

(3-3) JESC における技術基準適合性審議結果報告

[資料 69-5]

飯田委員から、以下のとおり報告があった。

- JESC 技術会議における審議状況、JESC パブコメの結果、JESC 本会議での審議状況
- JESC から経済産業省への活用要請の紹介

(3-4) 「発電用火力設備の技術基準の解釈」の一部改正に対する意見募集 [資料 69-6]

飯田委員から、標記経済産業省のパブコメについて紹介があった。

- 材料の許容応力を求めるための安全率が 4.0 から 3.5 に見直されている。
- 第 11 章 その他規格等の適用が新設され、167 条に、JSME 発電用火力設備規格基本規定(2012 年版)が取り入れられている。

[質疑]

Q:火力設備規格が火技解釈に取り入れられれば、メーカー等のニーズを規格に取り入れることにより、ニーズの反映が容易になると考えてよいのか。

→改訂した規格は新たに省令適合性の審議を受けることが必要ですが、ニーズが反映しやすくなると考えている。

(4) 審議事項

(4-1) レビュー票ダブルチェックの進め方 [資料 69-10]

樺田副主査から、資料に基づきレビュー票ダブルチェックのチェック項目、分担、スケジュール、レビュー票の保存場所について説明があり、この説明案に沿ってダブルチェックを進めることが確認された。

【補足事項】

レビュー票にダブルチェッカーがコメントする場合は、担当が変更したものとの区別できるように、以下のように運用の追加をお願いします【樺田】。

- レビュー担当者：今回の改訂での変更部分：赤文字
- チェッカー：チェック過程での変更部分：青文字

(4-2) レビュー票審議

1) 第Ⅶ章アーティクルⅠ (川端委員) [資料 69-7-2]

川端委員がレビュー票(コメント反映箇所)を説明。コメント等は以下のとおり。

○QW-151.1

- ・減断面試験片・・・この用語で OK.

○QW-151.2

- ・76.2mm・・・3inch は単に寸法をいっているので、75mm とする。

○QW-151.4

- ・上記と同様 76,2mm → 75mm
- ・変更区分 C、② とする。

○QW-153

- ・both・・・の部分 「クラッドを含む全板厚試験片とコアから採取した試験片の両方」などに見直す。

○QW-182

- ・引っ張り → 引張 (用語の統一)

○QW-195.2.2

- ・ 4mm 以上 → 4mm を超える (火技解釈、構造規格との整合性を考慮)

2) 第Ⅵ章アーティクル 4(逢澤委員) [資料 69-7-3]

逢澤委員がレビュー票(コメント反映箇所)を説明した。修正案とおりとする。

3) 第Ⅶ章アーティクルⅣ(倉富委員) [資料 69-7-4]

倉富委員がレビュー票を説明した。コメント等は、以下のとおり。

○QW-403.12

- ・ 熱伝導溶接 → 熱伝導型溶接

○QW-409.19

- ・ any の訳を追加する。「ビームパルス周期またはパルス幅いずれかの…」など
- ・ 変更区分を③とする。

○QW-409.24

- ・ プラズマ溶接なので、突き出し長さのことなのか、浮かせる長さのことなのかを確認する。

○QW-409.26

- ・ 規定される → 規定されること

○QW-410.12

- ・ 熱伝導溶接 → 熱伝導型溶接

○QW-410.47

- ・ 溶融温度からの冷却速度の温度管理について調べる。

○QW-416

- ・ 注の Section IVがどうなっているかを、ASME の最新版で確認する。

○QW-420

- ・ QW-422 は、第Ⅱ章の該当する許容応力表に置き換える。
- ・ QW-422 へ → QW-422 に

○QW-423

- ・ 備考に説明を記載する。

*レビュー票審議(MHPS 三菱)、使われる規格のために(意見交換)は次回。

*主査から、使われる規格のためには事前に読んで、次回の分科会では各社の意見・要望等を紹介していただきたいとの依頼があった。

6. 次回開催予定

- ・ 時間：2016 年 4 月 18 日(月) 13 時 30 分から(第1 候補日)
4 月 20 日(水) 13 時 30 分から(第2 候補日)

・ 場所：日本機械学会 3,4,会議室

以 上